

災害時要援護者への 避難支援



災害時要援護者とは、災害時の避難に何らかの手助けが必要となる方々(身体障がい者、高齢者、乳幼児、妊婦、外国人、旅行者などの方々)です。

避難支援のポイント

災 害時に要援護者の身になって防災環境の点検を

放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、災害時要援護者に対応した環境作りをしましょう。

避 難するときはしっかり誘導する

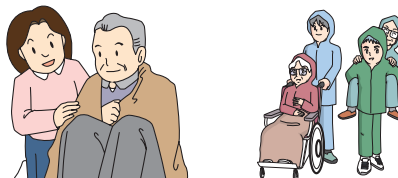
ひとりの災害時要援護者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な救援体制を決めておきましょう。隣近所で助け合いながら避難するようにしてください。

困 ったときこそ温かい気持ちで

非常時こそ、不安な状況に置かれている人の立場に立ち、支援する心構えを。困っている人や災害時要援護者に対し、温かい思いやりの心で接しましょう。

日 ごろから積極的なコミュニケーションを

災害時の支援活動をスムーズにするためには、災害時要援護者とのコミュニケーションを日ごろからはかっておくことが大切です。



次の方々の避難支援をしましょう

目 の不自由な人への援護

誘導するときは、声をかけながら、肘のあたり(杖をもっていない方の肘)に軽く触れるか腕をかして、半歩くらい前をゆっくり歩きましょう。

耳 の不自由な人への援護

近くに寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かして話しましょう。筆談も有効です。

肢 体の不自由な人への援護

それぞれの人に適した方法で臨機応変に対処しましょう。車椅子の場合は、階段では必ず3人で協力して、背中を下に向け恐怖感を与えないようにしましょう。

高 齢者への援護

背負ったり、肘や肩につかまってもらって誘導しましょう。危険箇所は指差し確認して、注意を促しましょう。

外 国人・旅行者への援護

外国人など言葉の通じない人には身振り手振りで誘導しましょう。また、自分が旅行しているときは非常口の確認をしましょう。

妊 婦・乳幼児への援護

妊婦や乳幼児を抱える母親などには、困っていることがないかすんで声をかけましょう。

